NTT-ME 第62回団体交渉

冒頭、組合は会社に対して、「すべての仲間の賃上げ」要求実現に、正面から応えることを強く求めました。【要旨】日本の国内総生産の約５割を占めるのは個人消費であり、そこを増やさなければ経済は好転しない。私たち一人ひとりの所定内賃金の大幅引き上げ、雇用を守り、労働者の人権を尊重し、将来の安定した生活設計が立てられる生活を実現することが必要である。

【組合】通信労　ＭＥ１７９号（第一次要求）について回答書の説明をお願いします。

【会社】回答書の読み上げ。（１）資格賃金を一律月額３８、０００円以上引き上げること。論議する考えはありません。貴組合員の対象ではない。という観点から論議する考えはありません。（２）「賃金水準及び諸手当をＮＴＴ本体会社に準拠させる事のつきましては、別途、回答することとします。今、社内で検討しています。今後の財務状況を勘案してお示したいと思います。

ＭＥの第３四半期の決算の状況は、キャリア系ビジネスについては前年度の施策完了に伴う受託費の減。ソリューションビジネスは社内システムの案件の終了による収入の減などによる対前年減収増益である。現在の減収トレンドに歯止めをかけるレベルの新たな収益源は確立されていない。会社としては強い危機感を感じている。このような状況の中、ＮＴＴ東日本グループの一員として、ＮＴＴ東日本グループの収入に最大限に貢献していく考えである。

【組合】一次回答書に「別途論議する」とあるが、「要求には応じられません」とある。どういう趣旨か？

【会社】別途回答というところは、会社で経営状況を見極めているところです。論議する考えはないというところのついては、貴組合の組合員は、６０歳超え契約社員であるということから、契約社員以外は考えていないということです。

【組合】要求に応じられないということは？

【会社】福利厚生とか評価制度等に関しては、会社で適正に実施しているという認識なので要求に応じられないということです。

【組合】「９．６０歳超え契約社員に関する賃金改善要求について」（４）夏季特別手当として基礎額×３．５ヶ月＋２０万円を支給すること。に対して、別途回答するとあるが考えているという事か。

【会社】そうです。

ちょっとだけサイエンス　パート２

学習の友より

mRNAワクチンとは？

ｍＲＮＡとは私たちの体の中で普段に働いている物質です。体を構成している細胞の中で、核に含まれるＤＮＡから、細胞で必要としているタンパク質を作り出す為の遺伝情報を写し取り、細胞の中のタンパク質製造工場（リボソーム）に送り届ける役割を果たしています。ｍＲＮＡのｍは、英語のメセンジャーで、「配達人」などを意味し、写し取った遺伝情報がＲＮＡです。

新型コロナワクチンには人工的に作ったｍＲＮＡが使われています。新型コロナウィルスは、まわりが突起のかたちをしたタンパク質に囲まれています。この突起タンパク質をつくるｍＲＮＡを人工的に合成、体内に注入して、突起タンパク質を作らせるようにしたのが新型コロナワクチンです。インフルエンザワクチンなど従来のワクチンは、感染性を無くしたウィルス（不活性ワクチン）などを使用して開発されていました開発や、安全性をたしかめるのに長い期間が掛かっていました。今回、ファイザー社のｍＲＮＡワクチンは、２０２０年４月から治験が開始され、11月には最終大規模治験が終了したと言いました。大規模治験の結果、ワクチンの有効率がきわめて高いことも明らかになりました。それでは、これまでｍＲＮＡワクチンが使われてこなかったのはなぜでしょうか。今回ノーベル生理学・医学賞を受賞することになったカタリン・カリコ氏（米ペンシルバニア大特任教授）は、ハンガリー生まれ、同国のセゲド大学でｍＲＮＡの研究をはじめ、博士号を取得しました。研究をつづけるため、１９８５年にアメリカに渡りました。このころ、人工的に作ったｍＲＮＡを細胞のなかに入れることで、医療に応用しようとする研究が世界的に行われていました。しかし、人工的につくったｍＲＮＡが体内で激しい炎症反応を引き起こすため、医療に応用することができませんでした。＜続く＞

映画紹介

あまろっく

兵庫県尼崎市を舞台に、突然再婚した父親と自分より19歳年下の再婚相手に振り回される女性の姿を描く。39歳の近松優子（江口のりこ）は仕事に情熱を注いで生きてきたが、理不尽なリストラで失業して以来、実家でニートのように暮らしている。一方、優子の父で町工場を営む竜太郎（笑福亭鶴瓶）は、「人生に起こることは何でも楽しまな」を口癖に近所の住民たちと面白おかしく毎日を過ごしていた。ある日、竜太郎が再婚すると言って20歳の早希（中条あやみ）を優子に紹介する。優子は19歳年下の義母を受け入れられないまま、３人での共同生活を送り始める。

ちょっと一息

ストック

東Ｈ本大震災の翌年、行って良いものかどうか？と迷いながら、三春の滝桜を見に行きました。樹齢１０００年を超える桜は、震災後も素晴らしい花を咲かせていました。帰りは、海沿いに回って、いわき市の小学校に設置された久ノ浜仮設商店街に立ち寄り、津波の生々しい写真等を商店の女性の説明を聞きながら見せていただきました。そして「この花あちこちに咲かせてきようのことを知り合いに話して」と貰ってきたのがこのストックの種です。花が咲くたび、あの女性を思い出します。今年は元旦に能登半島地震が起きました。先Ｈ、輪島など奥能登に入った国会議員の写真の後ろはがれきの山でした。４カ月もたって…。国は、県は何をやっているのでしょうか？裏金は湯水のように使うのに。（さ）